

平成 30 年 6 月

学校関係者評価報告書

学校法人 名古屋大原学園
大原簿記医療観光専門学校岐阜校
学校関係者評価委員会

平成 30 年 3 月に実施した自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「1. 教育理念・目標」以下 10 項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策並びに両者に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

1. 教育理念・目標

【課題】

評価は、昨年度同様「適切」又は「ほぼ適切」との評価となっており、特に課題となる項目はない。急激な社会の変化により、各業界のニーズも変化している可能性がある。各業界がどのような人材を求めているかを調査し、カリキュラムに反映させる柔軟性が問われる。

【今後の改善方策】

「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」は、引き続き入学前の保護者説明会・入学式・入学後のガイダンス・入学後保護者説明会を開催し、周知に努める。今後は、インターネットなどを使用した情報の発信方法を検討する。

各業界においてどのような人材を求めているかについては、求人関係で各社と接触する機会がある就職課（キャリアサポート室）との連携を検討する。

【関係者評価】

新入生や保護者に対してホームページ・入学前説明会・入学式等において、学校の教育理念等の周知が継続して行われており、評価できる。

また、グローバル化や情報化など社会の急激な変化に伴い、学校教育において求められる人材育成の変化への対応が必要であるといわれている。委員共通の認識であるが、社会人として仕事をする上では、コミュニケーション力やストレスコントロール力などの「社会人基礎力」が重要である。学校では「職場能力検定」として「協調行動力、自己管理能力、海外行動力、IT 活用力」を養うカリキュラムが導入されており、専門知識だけでなく「社会人基礎力」に着目した内容となっている点が評価できる。今後も、社会人基礎力を維持しつつ、社会変化に対応するために必要な情報収集と迅速な対策を怠らないよう心掛けて欲しい。

2. 学校運営

【課題】

学校運営については「適切」又は「ほぼ適切」との評価である。

「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」は、課題であった新たな学生管理システムの導入がされた。新システムについて職員の理解・使用度の格差があるため、理解・使用度の向上が課題である。また、各種アプリケーションを用いた業務の効率化に積極的な職員と消極的な職員との格差是正も必要である。

個人情報保護に関して、学校関係者評価委員会において学生に対する意識向上の方策の提案があったが、具体的な方策がとられていないことが課題である。

【今後の改善方策】

⑧については、今年度より新システムの導入がされたが、職員における新システム操作の習熟に努め、業務の効率化を図る。

また、当学園では教育情報システムを使用した業務の効率化や学生に配付するタブレットを使用した授業方法の確立など新たな教育指導方法の強化を行っている。各職員が過去の講義方式に拘らず、新たなチャレンジとして様々なアプリケーションを使用した方法を確立するよう推進する。

学生に対する個人情報保護に関する意識向上策については、学生に対して使用するツールなどを作成し、今年度中に啓蒙活動を行う。

【関係者評価】

課題であった新たな学生管理システムが導入されたとの報告があり、入学管理や学生管理等の業務の効率が図られていることは評価できる。今後は、改善方策に掲げた操作する職員の習熟（使用に慣れること）を心掛けて欲しい。

学校におけるコンプライアンスとして重要な事項に個人情報の取扱いがある。個人情報の取扱いに注意を払っていることは評価する。個人情報に関しては、社会的に厳格化されていることを職員全員が理解して欲しい。個人情報に関する学生の意識向上課題が改善されていないので、今年度において改善を実行するよう要望する。

3. 教育活動

【課題】

教育活動については、「適切」又は「ほぼ適切」との評価であり、昨年度より「適切」が増加している。

「⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか」の項目は、学生が自主的に参加する企業等を選択し、複数の企業に参加する学生も多い。また、関連企業との連携により長期間の職業訓練も行われる学科もあり、学校全体の積極的な取り組みが行われ、昨年より更に改善がされている。今後は、長期間の職業訓練が可能な協力企業の拡大が課題である。

「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」については、年度末における教職員全員の個別面談を実施するなど改善がされているが、面談頻度が少ないなどの課題がある。

「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」は、当学園が職員の知識向上を目的とした研修制度の奨励がされ、当校全職員が積極的に取り組んでいる。

【今後の改善方策】

平成 29 年度において、より実践的な職業訓練を行うため、一部学科では長期的な職業教育ができるよう協力企業と協議し、実施した。また、全学科において職業教育が実践されており、今後も継続的な職業教育を行う。また、協力企業の拡大は、当校の教育活動にご理解いただき、協力が得られるよう粘り強く交渉を行う。

授業評価については、「職員用自己評価シート」の作成と年度末の役職者による評価面談を行ったが、各学期末に行うなど面談の頻度を上げる。

職員の能力開発のための研修等は、昨年度から新たな取り組みが行われており、今年度も継続する。

【関係者評価】

教育活動については、特に問題となる項目はない。

課題とされている長期間の実践的な職業訓練のための協力企業の拡大は、企業側の事情もあり、難しい問題である。インターンシップは、採用方法の一手段と考えている企業が多くなり、実習は短期間が多くなっている。学生の職業意識の向上を図ることが大切であり、期間の長短に拘らず今後も積極的に取り組んで欲しい。

なお、職員の能力開発については、各自の目標設定、定期的な状況報告と上司による面談など、体系的な取組みとなっており、学園全体が積極的に取り組んでいるとの報告があり、評価する。組織の発展には人材育成が欠かせないので、能力開発の継続を希望する。

4. 学修成果

【課題】

学習成果については、昨年度は一項目で「やや不適切」との評価があったが、平成 29 年度は「適切」又は「ほぼ適切」となっている。

「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」については、卒業生に対するアンケート調査を実施することが課題であったが、アンケート調査を実施することにより一定の情報収集をしたことが「やや不適切」の評価が解消された要因といえる。ただし、アンケート調査による情報だけでは、卒業後のキャリア形成への効果を把握するには不足しているため、他の情報収集方法が検討課題である。

また、退学者数は 1 名に留まっており、前年度より更に改善されている。

【今後の改善方策】

卒業生の活躍・評価の把握については、アンケート調査を実施したことにより一定の情報を得るこ

とができ、卒業生の動向を確認することができた。今後は、卒業生と直接連絡することにより詳細な状況把握をし、カリキュラムの有効性を客観的に評価できる体制を整える。この調査は、在校生に対し社会人としての心構え・取り組み姿勢・学生の間でやるべきことなどを発信する貴重な資料であるとともに、卒業生の社会的な活躍を把握する術となる。

また、退学者防止については、前年に改善した「保護者との定期的な連絡」が効果として表れており、今後も引き続き実行する。

【関係者評価】

就職率・資格取得率の向上、退学率の低減の3項目は、学校教育の成果を図る基準となる。3項目は、クラス担任制を中心とした指導体制が確立されており評価できる。今後も「資格の大原・就職の大原」として学修成果をあげ続けて欲しい。

昨年度の委員会の要望である「退学防止に繋がる入学前における対処」は、オープンキャンパス未参加の入学志願があった場合の対処として、学校の教育理念やカリキュラムを入学前までに個別説明を行うなど徹底を図っており、入学後のミスマッチを避ける良い方法である。

また、課題であった卒業生のアンケート調査を実施したと報告があり評価する。卒業生に対し詳細な状況把握をすることが改善方策としているが、動向調査だけでなく学校の教育活動の改善が必要であるかを把握・改善する調査を実施すべきである。そのために必要な、調査の時期・学校の教育活動の成果の状況把握・改善等の体系的な調査を確立することを要望する。また、企業側の調査を実施したいとのことであったが、企業は当たり障りのない表現を使用する可能性が高いため、卒業生からの情報収集を中心に精査すべきである。

5. 学生支援

【課題】

学生支援に対しては、「適切」又は「ほぼ適切」となっており、特に課題はない。

「⑥学生の生活環境への支援」について課題であった支援制度の周知拡大は、支援制度パンフレットの作成を行い、高校訪問時、外部会場ガイダンス、オープンキャンパスにおいて周知を図っており、改善がされている。

「⑦保護者との連携」では、昨年度の課題であった保護者会の参加者へ促進は、保護者の参加を学生に直接促し、参加の有無についてインターネットを利用するなどの工夫により昨年度より多くの参加者があり、一定の成果があった。また、アプリケーションを使用した保護者との連絡・報告等の対処ができないかを検討すべきとの意見があった。

「⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組み」については、高校に対する支援を続けており、特に問題はない。

【今後の改善方策】

⑥については、引き続き「支援制度パンフレット」配布等により周知強化を図る。

⑦保護者との連携の一方法として、一定時期に学生の出席・成績状況の報告が郵送でされているが、

アプリケーションなどの電子媒体による配信を検討する。

⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みは、高校からの支援要請を積極的に受けており、今後も継続して取り組む。

【関係者評価】

昨年度課題であった支援制度の周知拡大、保護者説明会の参加促進策は、専用のパンフレット作成及びパンフレットを使用した周知活動、保護者説明会のインターネットを活用した参加促進など工夫し実行されており、評価する。

学校は、高校卒業生を対象とした専門課程と大学生や社会人を対象とした講座があるが、専門課程の学生で希望者には、社会人向けの講座に無料又は低額で学習できる聴講制度が確立している。社会人の学ぶ意識を感じ取り、学生のやる気へと繋がる支援体制が整備されており、評価する。

高校との連携は、就職の面接対策・資格取得支援対策など開校以来継続して行っており評価する。高校からの支援依頼があるということは、学校への信頼感が高い証拠である。今後もできる範囲内で継続して欲しい。

6. 教育環境

【課題】

教育環境については、ほぼ「適切」の評価であり、特に課題はない。

①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているかは、ネットワーク環境や授業に必要な設備は整備されており、特に課題はない。あまり活用されていない教室や設備があり、どのように有効活用するかを検討すべきとの意見があった。

②インターンシップは、全学科で実施がされており、特に課題はない。検討課題であったホテル・ウェディング学科については、より実践的な実習を行うため、長期間の実施を行った。

また、海外研修については、一昨年度は実施したが、海外情勢の不安から昨年度は見送った。海外情勢に影響されない海外研修に代替する方策を考える。

【今後の改善方策】

有効活用されていない教室・設備は、別の施設利用に変更することができないか検討する。ただし、費用が過大となる場合には、現存の施設のままでの有効利用策を検討する。

海外研修は、異文化体験や異文化理解をするうえで有用である。安全上の問題もあり実施には慎重に対処しなければならない。海外研修の代替案として、在日外国人との交流などを通じて多文化を知る機会などを設定することも検討する。

救命講習などの実施は、計画性をもって実施する必要がある。実施時期等の早期決定・担当者の明確化を行う。

【関係者評価】

施設・設備については、有効活用されていない教室・設備の課題が挙げられている。使用されない

わけではなく、カリキュラムや学生数に応じて使用の有無が決定するかと思われるので、費用がかかる変更は避けたほうが良い。なお、開校以来、教育上の必要性に十分対応できる整備もしており、特に問題はない。

海外研修の代替として、在日外国人との交流を図る改善方策は、日本にいながら外国人とのコミュニケーションを図る良い試みだと思う。是非、実行して欲しい。

なお、海外研修は、出国・入国の手続きの仕方や現地に行かなければ体験できない様々なことがあり、教育的効果は非常に高い。機会があれば実行して欲しい。

7. 学生の受入れ募集

【課題】

学生の受入れ募集については、「適切」又は「ほぼ適切」となっており、特に課題はない。

①学生募集活動は、オープンキャンパスの実施内容を検討、外部で行われるガイダンス等に教務担当職員が参加するなど、職員全員が学生募集活動に積極的に取り組んでいることが成果として出ている。

②教育成果については、高校訪問や学校ホームページ等により、タイムリーな提供を実施しており、特に問題はない。

【今後の改善方策】

学生募集活動は、オープンキャンパスに参加した高校生とのコミュニケーションを取ること、当校の教育方針をアピールすることがポイントとなる。職員間で定期的な検証を行い、アピールポイントを全体で共有する。また、教務担当職員が外部で行われるガイダンス等にできる限り参加し、実際に教育現場に立つ者からのアピールを積極的に行う。

教育成果の提供については、簿記教科実施高校との関係強化などを行っており、高校訪問と併せ今後も継続する。

前々年度より通学にかかる交通費など学納金以外の負担軽減を図るため、支援制度を実施している。この支援制度の周知を図るためパンフレット作成し、学生に対する当校のバックアップ体制の強化アピールを行っており、継続して周知に努める。

【関係者評価】

昨年度より入学者が増加との報告を受けた。教職員の積極的な募集活動や支援制度のパフレット作成などによる募集強化の成果であり評価する。教育成果の提供方法としてパンフレット（入学案内書）だけでなく、資格試験合格や企業内定の情報を写真付で学生の出身高校に提供するなど工夫がされている。また、インターネットを利用した情報発信も行っていると報告を受けた。今後も工夫を重ね募集活動に当たって欲しい。

8. 財務

【課題】

財務についての評価は、「適切」が多く、特に課題はない。

学校の財務基盤の安定を図るためには、一定数の入学者を確保できるよう引き続き努める必要がある。

【今後の改善方策】

18歳人口の減少傾向が大きくなるため、一定数の入学者の確保をするためには、他の教育機関との差別化を明確にする必要がある。学校のアピールポイントを明確にし、外部に情報発信することが重要である。そのためには、社会が求める人材育成や学生のニーズに対応した教育を今後も探求することを疎かにしないことが大切である。そのため、時代に対応する企画力の強化、教職員個々の業務力の向上に向けた取り組みを継続して行う。

また、金銭的な面だけでなく業務効率の改善にも努める必要がある。業務内容の改善による勤務時間の短縮が光熱費の削減に繋がるなど、効率化によるコスト削減を図る。

【関係者評価】

財務について会計監査、財務情報をホームページで公開しており、特に問題となる項目はない。

今後も積極的な情報公開と財政基盤安定に取り組んで欲しい。

9. 法令等の遵守

【課題】

法令等の遵守については、「適切」が多く、特に問題はない。

②個人情報に関しては、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を整備し適正に取り扱いがされている。学校は多くの個人情報を取り扱うため、引き続き情報の管理・規則厳守の確認、徹底を図る必要がある。

また、ハラスメントが社会問題となっている。教職員と学生、職員間のハラスメントなどの防止対策を確立する必要がある。

【今後の改善方策】

定期的な研修により、個人情報の管理・運営上におけるリスクを職員が理解し、今後も個人情報の取扱いに注意するよう継続して努める。

ハラスメント対策は、現在の社会情勢から必要不可欠との認識に立ち、職員に対する研修など具体的な対策方法を検討する。

【関係者評価】

法令等の遵守が学校の評価にどれほど影響を与えるかは、言わずと知れたことである。

個人情報は、学園規則により整備し取り扱いがされているので特に問題ないが、職員は個人情報を

守る義務があるという意識を常に高く保持して欲しい。

ハラスメントは、社会問題としてクローズアップされている。大学は、ハラスメント防止・対策に関するガイドラインを設定しているので参考にするとよい。また、職員の意識改革も必要となるため、研修等の実施も心掛けて欲しい。

10. 社会貢献・地域貢献

【課題】

昨年度と比較し「適切」との評価へ改善しており、特に課題はない。

①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、学園の「人的資源」「物的資源」の提供を行い、社会貢献・地域貢献をできる範囲内で継続して行う。

②学生のボランティア活動については、昨年度において「ぎふ清流マラソン」のボランティア活動に進級生全員が参加し、学生の参加意識も高く、好評であった。今後も引き続きボランティア活動を奨励・支援し、社会貢献・地域貢献の意識を高める。

【今後の改善方策】

①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、開校時から高校等における資格取得支援のための教職員の派遣や学内における支援講座の実施、廃棄教材等を自治会の資源ゴミとしての提供、教室の貸出しを継続して行っている。また、今後も出来る範囲内で積極的に取り組む。

②ボランティアについては、進級生全員による「ぎふ清流マラソン」のボランティア活動を行った。今年度以降も参加し、社会形成者意識の向上と学校関係者以外の方との協調性、コミュニケーション能力の向上に努める。また、学校周辺の清掃活動のボランティアも継続的に行う。

【関係者評価】

社会貢献・地域貢献について、特に問題となる項目はない。

学校の教育資源を自治会や高校に提供していることは、学校の社会貢献・地域貢献として評価できる。

また、「ぎふ清流マラソン」等のボランティア活動は、学生の主体性を育み、地域社会の形成者意識に繋がるので、今後も積極的に参加して欲しい。

学校関係者評価委員会

役職	氏名	現職
委員長	鈴木 慎吾	元 岐阜城北高等学校 教頭
委員	浅野 直也	株式会社 ダックアサノ 代表取締役社長
委員	細川 陽平	株式会社岐阜冠婚葬祭互助会 代表取締役副社長
委員	塚原 政史	税理士法人タックス&マネジメント 税理士
委員	神田まなみ	岩砂病院・岩砂マタニティ 医局秘書

